

(お知らせ)

以下の書籍の一部に文字欠落がありました。各書店での販売分には欠落箇所の正誤表が封入されておりますが、読者の方の便宜のため、本サイトでも正誤表を公開いたします。

内田純一(著者・サイト管理者)

該当書籍：

『地域デザイン戦略総論 コンテンツデザインからコンテクストデザインへ』
地域デザイン学会編集、原田保編著、芙蓉書房出版 2013年1月刊

該当章： 第6章

イノベティブ地域を創るコンテクストデザイン
地域と産業クラスター

内田 純一

116 ページ正誤表

誤	<p>(1)トリプルヘリックス空間のゾーニング</p> <p>クラスター論が優れている点は、ある地域の産業発展のためには、要素条件、需要条件、関連・支援産業、そして企業戦略・構造・競合といった四つの要素(ダイヤモンド・モデル)を充実すべきだという、その簡潔な主張にある。しかし、ダイヤモンド・モデルを、日本の自治体にそのまま導入することは難しい。例えば、北海道では2000年頃までに、道内各地に小さなクラスター研究会が立ち上がったが、実際にクラスター論が目指すダイヤモンド・モ 調整 行 規模 達 研究会 出 内田 2012)。クラスター</p>
正	<p>(1)トリプルヘリックス空間のゾーニング</p> <p>クラスター論が優れている点は、ある地域の産業発展のためには、要素条件、需要条件、関連・支援産業、そして企業戦略・構造・競合といった四つの要素(ダイヤモンド・モデル)を充実すべきだという、その簡潔な主張にある。しかし、ダイヤモンド・モデルを、日本の自治体にそのまま導入することは難しい。例えば、北海道では2000年頃までに、道内各地に小さなクラスター研究会が立ち上がったが、実際にクラスター論が目指すダイヤモンド・モデルの調整 が行えるような規模に達した研究会は出てこなかった(内田 2012)。クラスター</p>